

## Is the HAS-BLED score useful in predicting post-extraction bleeding in patients taking warfarin? A retrospective cohort study

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 片岡, 利之 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00023896">https://doi.org/10.20780/00023896</a>

## 主論文の要約

Is the HAS-BLED score useful in predicting post-extraction bleeding in patients taking warfarin? A retrospective cohort study

(HAS-BLED スコアはワルファリン内服患者の抜歯後出血を予測するのに有用か?)

東京女子医科大学歯科口腔外科学教室

(指導：安藤智博教授)

片岡 利之

BMJ open 2016;6:e010471. doi:10.1136/bmjopen-2015-010471 に掲載

### 【目的】

抗凝固療法患者の抜歯は抗凝固薬を維持量で行うことが推奨されている。しかし、至適治療域に管理されている患者で抗凝固薬を維持量で抜歯をした際にも抜歯後出血をしばしば遭遇する。抜歯後出血リスクの高い症例を術前に選別することができれば、十分な準備のもと抜歯が行える。近年、抗凝固療法患者の出血性合併症のリスク指標としてHAS-BLED scoreが用いられており、抜歯後出血の予測にHAS-BLED scoreが有用であるか検討した。

### 【対象および方法】

2010年1月1日から2012年12月31日に、当科に入院して抗凝固療法を継続下に抜歯した症例を対象とした。併用している抗血小板薬も全て維持量とした。抜歯当日朝の血液検査でPT-INR 3.1以上の症例は除外し、退院1か月後まで追跡調査した。診療録から医師記録と看護師記録、臨床検査結果をデータベースに登録した。抜歯後出血の有無について調査し、抜歯後出血危険因子(抜歯部位、歯種、骨植状態、抜歯手技、PT-INR、血小板数)、HAS-BLED score、抗血小板薬の併用の有無が抜歯後出血に及ぼす影響について統計学的に検証した。

### 【結果】

258症例のうち21症例(8.1%)に抜歯後出血がみられた。HAS-BLED score

の最高点は3点で、抜歯後出血の有無に差はみられなかった。

抽出した危険因子を多変量解析したところ、抗血小板薬の併用の有無で有意差を認めた(RR=2.881,P=0.035)。抜歯後出血の予測モデルを作成し比較検討したところ、HAS-BLED score 単独のモデルは最も低い結果であった(AUC=0.548)。

### 【考 察】

抗凝固薬維持量の抜歯後出血は抗凝固薬を中断した場合と同程度で約6-7%と報告されており、我々の結果も同様であった。

HAS-BLED score の最高点は3点であり、高齢(65歳以上)に該当する症例が最も多かった。ヨーロッパ心臓病学会では3点以上を出血性合併症の高リスク群としている。抜歯後出血の有無をHAS-BLED score の2点以下と3点以上で比較したが有意差はみられなかった(p=0.703)。今回作成した抜歯後出血の予測モデルではHAS-BLED score は最も低く、HAS-BLED score 単独では抜歯後出血を予測できなかった。

これまでに抗血小板薬併用の有無が抜歯後出血に及ぼす影響については統一した見解は得られていない。本研究では統計学的に有意差がみられており、抗凝固薬との併用は抜歯後出血の危険因子であると推測する。

### 【結 論】

HAS-BLED score 単独では抜歯後出血を予測することはできなかった。抗血小板薬の併用は抜歯後出血の危険因子であった。抜歯後出血がみられた症例はすべて局所処置で止血可能であった。この研究は単施設の後向き観察研究であるため、将来的には外来患者を含めた大規模前向き研究が望まれる。